

平成 30 年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育振興会
	代表者	理事長 奥 川 清 次 郎
	所在地	むつ市大畑町中島 1 0 8 番地 5
指定期間	平成29年4月1日 ～ 平成32年3月31日 (3年間)	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関する事。 2、施設の利用料金の徴収に関する事。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関する事。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関する事。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関する事。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関する事。 7、施設の維持、管理及び修繕に関する事。 8、施設の特性を活かした利用促進に関する事。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要な事。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額 ①	上半期実績額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	90,421	47,418	△43,003
うち利用料金額	8,048	6,207	△1,841
その他収入	59	54	△5
うち指定管理料	82,314	41,157	△41,157
支出合計 (B)	90,421	41,758	△48,663
うち人件費	57,207	27,250	△29,957
収支差 (A-B)	0	5,660	5,660
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	収入 9月末までの利用料合計は、前年実績5,866千円であるが今年度は341千円多い6,207千円であった。利用人数の増加が要因と考えられるが、年度初めの誘客訪問でのチラシ配布、説明等による浸透が大きい。		

	<p>支出</p> <p>支出合計は昨年度より3,625千円多い41,758千円となった。</p> <p>人件費2,246千円及び備消耗品費1,021千円の加算が大きくなったため増額した。備消耗品費については、物品の入れ替えを計画的に進めていることや経年劣化により交換を余儀なくされたことが増加の要因になった。</p>
--	---

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
	利用者数		10,000	7,774
	宿 泊	1,600	2,024	424
	食 事	13,000	9,771	△3,229
	貸 館	170	94	△76
	リネン	2,400	1,815	△585
	教 材	2,800	2,255	△545
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無)				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
黒森山登山～春～	27	27	24
家族で野外クッキング	21	25	24
家族でBBQ	35	54	51
家族でキャンピング	8	31	36
オートキャンプ	0	0	0
黒森山登山～秋～			8
体感するジオパーク			5
伝統体験「べこもち作り」			5
「Let's Enjoy English」			5
伝統体験「としなづくり」			6

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：要改善）

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	A
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	A
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	A
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	A	A
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	A
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	A
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	A
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
① 施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
② 設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	A
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	A
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	A
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	A

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をCとした項目についての改善策も記載すること。

<p>平成30年度は指定管理2期2年目を迎え、ジオパーク拠点施設としての役割を担うとともに、自然体験活動の充実を図り、多くの利用者に自然と触れ合う体験活動を提供し、誠意ある対応に努め、癒しと潤いのある社会教育施設としての役割を担うことを目標に掲げて事業運営に取り組んできた。</p> <p>今年度は事業目標の具体的施策として、誘客増を目指してのスポーツ・各種利用団体の誘致、ジオパーク関連事業の実施、出前講座の導入、オートキャンプ導入試行、主催・自主事業の工夫等に重点を置いて、事業を推進している。</p> <p>上半期の利用状況は、利用団体数274団体(H29:120)、利用人数4,806人(H29:4,062)利用総延べ人数7,774人(H29:6,607)となり、昨年同時期と比較し、利用者数774人増、利用延べ人数1,167人の増となった。昨年度より利用団体が増え、収益も上がる結果となった。また、昨年度と比較し新規24利用団体の申し込みが増えた。</p>

今年度当初、全職員が事業所訪問での説明と案内書の配布を行ったほか、ホームページの更新により、主催・自主事業の宣伝、利用団体の活動状況を掲載し、ブログの閲覧数も増え、自然の家の利用促進につながっている。

ジオパーク関係でジオサイト「ちぢり浜」を訪問する利用者は増え、ジオサイト見学、海辺の自然観察、磯釣りの体験活動が行われて、ジオサイトの景観、自然の理解が浸透してきた。また、高校陸上部、県民駅伝チーム、野球部等の宿泊合宿や各種スポーツ大会による宿泊利用が増えてきた。

自主事業としてオートキャンプ施行を3週間ほど設定したが開設時期、宣伝期間も短く、来年度の本格実施に向けて準備をし、繁忙期と閑散期の利用率の差を縮めたい。

今年度初めて「出前講座」を導入し、市内大規模校での「焼杉ストラップ」「ロープワーク」を実施し、直接自然の家に来所できない団体に好評であり、閑散期の利用者数の確保に努めている。

今年度は、夏場における熊の皮剥ぎが多数確認され、活動前、活動中の熊対策も入念に行い、利用者の安全を確保し無事故で終えることができた。一昨年の登山道閉鎖も解消され、今年度は野山の散策、黒森山登山も安全に実施できている。

上半期は地震、台風などの自然災害も多く、施設が安全な避難場所としての機能を有しており、地域の方々の避難所として開設した。日頃から地域住民と連携し、国道の清掃、ちぢり浜海岸のごみ清掃、地域の例大祭に出席し連携を深めている。

指定管理1期目よりも指定管理料の減額により職員を2名減とし、研修、管理、厨房職員も連携して職務を遂行しているが、さらなる利用者の安全、事故防止、事業や指導の充実を図るためには研修班職員の補充が必要な状況にある。

施設設備については経年劣化による施設の破損等も発生したが、利用者に不便をかけることなく、軽微なものについては職員の修復作業で対応することも多かった。

職員研修については、定期的・計画的に実施され、実施後の改善点は活かされている。

今後も利用者の安全・安心を第一優先にし、事前のコース点検、施設・設備の瑕疵の確認、施設の修理営繕等の取り組みを継続していきたい。

職員研修で食事提供の異物混入、アレルギー対応、防災講習、ジオパーク研修を計画的に実施し、職員の資質向上と職能の向上に努めている。

下半期に向けて、魅力ある社会教育施設として利用者第一優先にし、事業活動を充実させ、利用者の増加を図りたい。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

収入の増加を図るため、年度初めに利用促進のためのチラシ配布や説明等により、利用料収入が昨年度に比べ増加したことは指定管理者の努力が伺えます。支出の面では、昨年度に比べ支出が増加しているものの、利用者の安全・安心のため定期的な物品の入れ替え等をお願いするものである。

また、今年度は新たな自主事業としてオートキャンプ導入に向け試験的に開設をするなど施設のフィールドを最大限に活用した事業展開を図っているもので、今後も引き続き、利用促進に繋がる取り組みに期待するものであります。